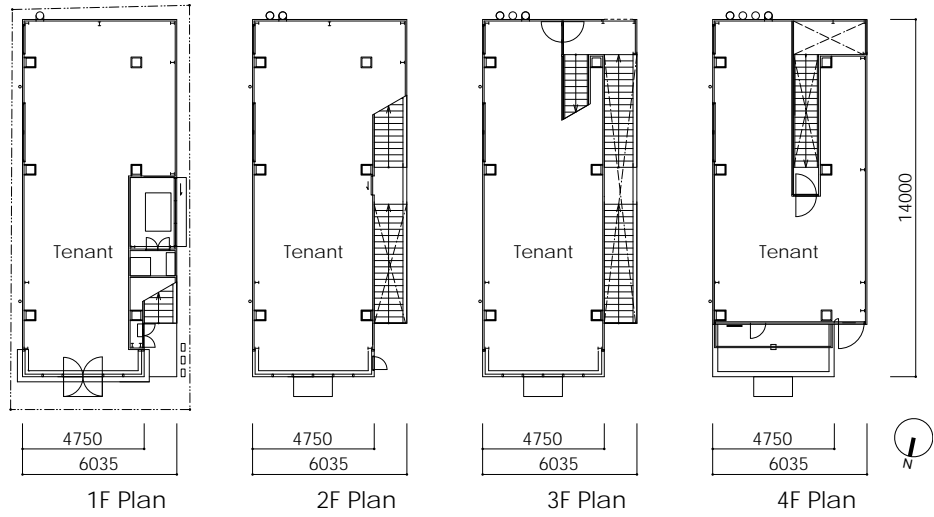


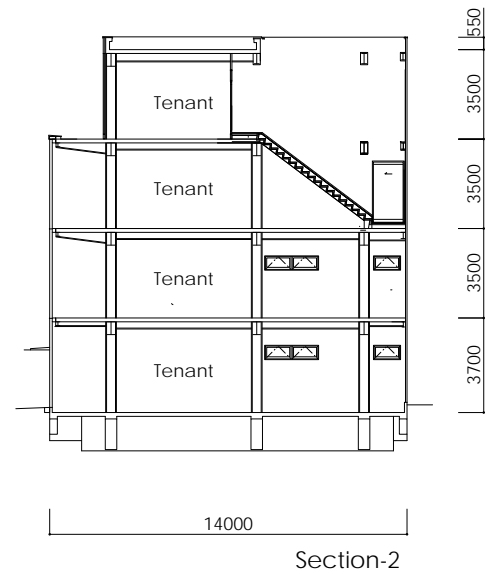
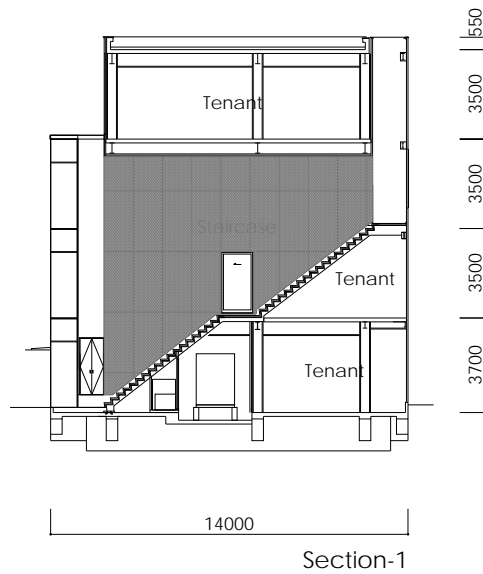
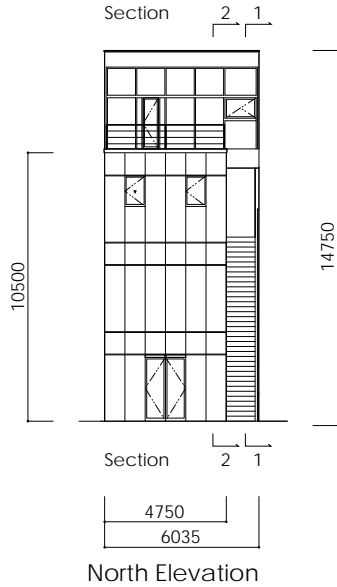
D's Face II

ディーズフェイス2

所在地	福岡県福岡市中央区大名
構造・規模	S造4階建
建築用途	テナントビル
建築面積	80.48㎡
延床面積	289.20㎡
竣工	2002年2月
施工	谷口建設株式会社



- (株)スピングラス・アーキテクトと共同設計
- 内装デザインはコム・デ・ギャルソンによる



敷地のある福岡の大名界隈は、飲食店・物販店・美容室といった様々な商業プログラムが、日本でも有数の巨大な規模で展開されている。

それらに応じて、建築・内装デザインにも、商品そのものと相まって、個性的に、無秩序に、比較的小さなスケールで、様々な色や材質、形態が用いられている。典型的なアジアの一風景である。

このコンテキストにおいて、商業建築は、前述したアジアの風景と、建物自身の内装デザインの境界に位置する。そこに求められるものは、従来の「自己完結型」の、設計手法や際立つ素材の採用ではなく、

- ・境界という視点で空間を構築していくこと
- ・内装デザインを納めるハコとしての役割を見つめ直すこと
- ・形態レベルで、このコンテキストの中での確固たる存在方法を選択することであると考えた。

それらを踏まえた上で、設計においては、階段室・カーテンウォールといった建築の主要素を、明確に分節し、出来るだけ長く、伸びやかな直線で構成する手法を用いた。階段室には、3層・約10メートルの天井高さを持つ直階段をデザインすることで、特有の雑然とした街並から建物内部への導入に、動線・視線上の一定の距離を持たせている。

その空間は、天井の鏡面仕上げや壁面のアルミエクスパンダメタルを通して、雑然とした風景を映し込みながら、さらに広がっていく。

カーテンウォールは、従来の、都市⇄内部の視線の透過という役割だけでなく、フレームレスの工法を用いて、街並に「ガラスの箱」を挿入することで、確固として存在するとともに、それ以外には開口部を設けないことで、内装デザインの照明計画に配慮している。

全体を構成する長い直線は、この街並に対しては建築を、建築に対してはそれよりかなり小さなスケールで展開される内装デザイン・商品を、それぞれ際立たせる働きをしている。



外部階段を見下ろす / Look Down The External Staircase



街路より / View From The Street



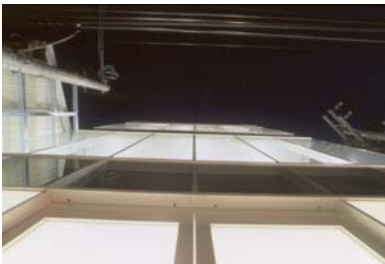
外部階段を見る / View Of The External Staircase



正面より (夜間) / Front View (Nighttime)



外部階段上部を見る /
View Of Above The External Staircase



カーテンウォールを見上げる /
Look Up The Facade



内部空間を見る (2階) /
View Of The Interior (2F)



内部階段を見る /
View Of The Internal Staircase



正面より (昼間) / Front View (Daytime)